

熊本県・益城町立益城中学校

笑顔と自信が生まれた農業・園芸体験

特別支援学級の、荒れ地の開墾から会食まで



コスモス学級の3名による野菜づくりは、学校の空地の石をのぞく所から始まりました。登校した日には、毎日畑に行き水やりや草取りに精を出し、とれた野菜で調理体験もしました。また「みんなが登校した時に花で迎えられるように」と、玄関脇に花を育てています。取り組みをまとめた壁新聞で受賞した時は、全校が彼らに拍手を送ってくれました。

データ

熊本県益城町立益城中学校
 熊本県上益城郡益城町惣領900番地
 ☎096-286-2025
 生徒数：628名（コスモス学級3名）
 畑の場所：学校敷地内の空地
 活動時間：授業および毎日の水やり
 担任：村枝直樹先生

空地での野菜づくり



春 荒れ地の開墾 大きな石がごろごろ出てきた



春 看板づくり

カラフルな色で仕上げた

夏 夏野菜の収穫



シソの葉を収穫

玄関前を花で飾る



秋 ノースポールの苗づくり

学校敷地に自然に生えていたノースポールをとって、ポットに植えた



秋 花壇づくり

自分たちで買ってきた苗で、きれいな花壇をつくった

【コスモス学級での取り組みの意義】

協力して食べ物をつくる～食べるというプログラムは、生徒が将来の自立した生活を目指す上で、技術面、精神面ともにとっても大きな力になったと担任の先生は言う。

時間を区切り集中して行う作業、目的のある計算や計量、つらくとも責任を持ってこなさなければならない役割分担。それを乗り越えての収穫の喜び。

自分が作ったものを調理し、保護者を招いてふるまい「おいしいね！」と言われた。

それらの体験を、時間をかけて話し合いながらいねいに壁新聞にまとめた。その作品が賞をとり、学校の他の友達から「すごいね。がんばってるね」と言われ、学校に行くのが楽しくなった。

「畑づくりを通して生徒たちが変わった。自信にあふれてきた」と先生は言う。「学校が楽しいと言ってくれる」と、保護者も喜んでくれているという。

●花植えに込めた生徒の想い

「これから冬に咲くノースポールを、玄関口の手すりに飾っていく予定です。登下校をする生徒や、散歩をする地域の方々に喜んでもらったらうれしいです。花を飾ったら、もっと明るく、心がいやされると思います。これから手すりにいっぱいの花が咲くのが楽しみです。春や夏にも、季節の花を植えて行こうと思います」（生徒の書いた壁新聞より）

● 収穫した野菜を料理して会食（1回目は学級のみ、2回目は保護者を招いた）



みんなで近所の店
に買い物に行った

2回目は、事前にみんなで作業を確認したので、しっかりと手順を覚えることができた。保護者には、作業から見てもらった



虫が苦手な生徒の感想「虫に食べられたような跡があって、食べられないなと思いましたが、先生が虫が食べるくらいおいしいんだよと言われて、ほっとしました」（壁新聞より）



スナックエンドウとベーコン
のスパゲティとサラダ

「保護者と一緒にみんなで食べた時は、笑顔が止まらず、とても楽しかったです」
「みんなが笑顔で食べてくれて、また野菜を作りたいと思いました」（壁新聞より）

● 関連する授業



まちかどの自動精米コーナーで、米の精米体験



野菜をモチーフにステンシルで作品づくり。バザーでの販売が目的



益城町の特産品をモチーフに、学級の大漁旗づくり